

目次2へ 問題へ

[1]

(1) (ア) $7 - 2 \times (-3) = 7 - (-6) = 7 + 6 = 13$ 答 13

(イ) $(18x^2y - 2x) \div 2x = \frac{18x^2y}{2x} - \frac{2x}{2x} = 9xy - 1$ 答 $9xy - 1$

(ウ) $\frac{3x - 4y}{5} - \frac{x - 3y}{2} = \frac{6x - 8y}{10} - \frac{5x - 15y}{10} = \frac{x + 7y}{10}$ 答 $\frac{x + 7y}{10}$

(エ) $\sqrt{20} - 5\sqrt{5} + \frac{15}{\sqrt{5}} = 2\sqrt{5} - 5\sqrt{5} + \frac{15\sqrt{5}}{5} = -3\sqrt{5} + 3\sqrt{5} = 0$ 答 0

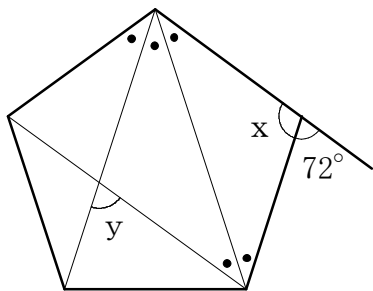
(2) $(x - 4)^2 = 25 - 11x$ $x^2 - 8x + 16 = 26 - 11x$
 $x^2 + 3x - 10 = 0$ $(x - 2)(x + 5)$

答 $x = -5, 2$

(3) $1993 \times 2007 = (2000 - 7)(2000 + 7) = 2000^2 - 7^2$
 $= 4000000 - 49 = 3999951$

答 3999951

(4)



∠x は正五角形の内角の1つである。

正五角形の内角の和は

$$180(5 - 2) = 180 \times 3 = 540^\circ$$

よって $\angle x = 540 \div 5 = 108^\circ$

または、正五角形の1つの外角は $360 \div 5 = 72^\circ$

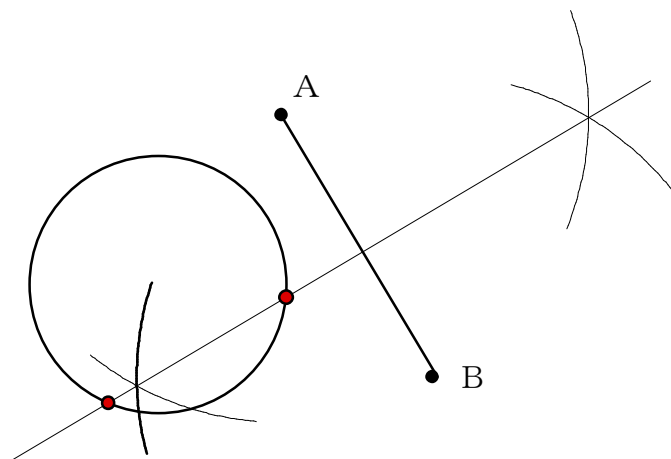
よって、 $\angle x = 180 - 72 = 108^\circ$

$\bullet = 36^\circ$

$\angle y = 36 + 36 = 72$

答 $\angle x = 108$ (度), $\angle y = 72$ (度)

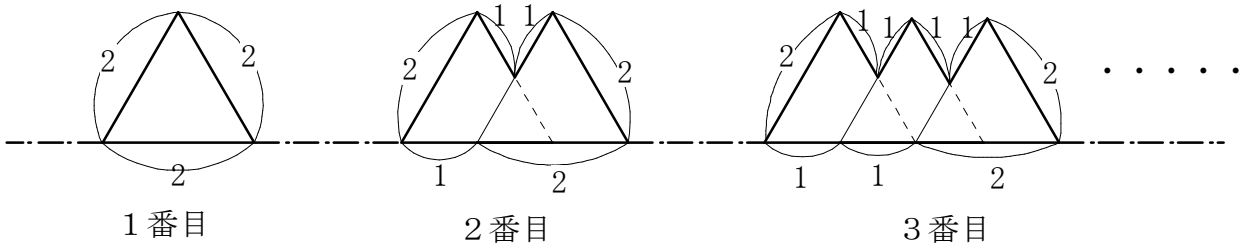
(5) 線分ABの垂直二等分線と円の交点が求める点である。



[2]

(1)

[図1]



1 番目

2 番目

3 番目

$$2 \times 3 = 6 = 3 \times 2$$

$$= 3 \times (1+1)$$

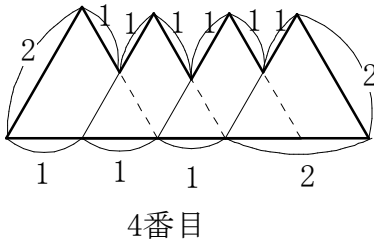
$$2 \times 3 + 1 \times 3 = 9 = 3 \times 3$$

$$= 3 \times (2+1)$$

$$2 \times 3 + 1 \times 6 = 12 = 3 \times 4$$

$$= 3 \times (3+1)$$

(ア) 4番目の図形の周囲の長さを求めなさい。



4 番目

$$2 \times 3 + 1 \times 9 = 15 = 3 \times 5$$

$$= 3 \times (4+1)$$

答 15 (cm)

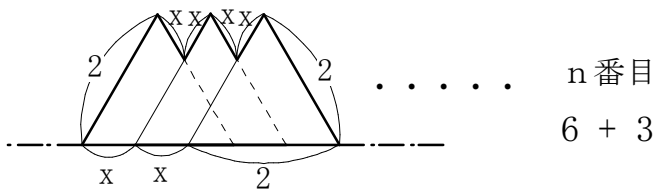
(イ) n番目の図形の周囲の長さ

$$3 \times (n+1) = 3n+3$$

答 3n+3 (cm)

(2) x cm ずらして重ねたとき

[図2]



n 番目

$$6 + 3x(n-1)$$

3 番目

$$3 \times 2 + 6x = 6 + 6x = 6 + 3x(3-1)$$

n = 8 (8番目) のとき
周囲の長さが 20 cm だから

$$6 + 3x(8-1) = 20$$

$$21x = 14$$

$$x = \frac{14}{21} = \frac{2}{3}$$

答 $\frac{2}{3}$ (cm)

[3]

- (1) 予定していた25人が、団体割引を使って入場するときの合計金額を x , y を使って表す。

区分	入場料	
	個人	大人
小人		1000円
団体 (25名以上)	大人	1人あたり300円引き
	小人	1人あたり100円引き

大人 x 人 1人あたりの金額は $2500 - 300 = 2200$ 円

小人 y 人 1人あたり金額は $1000 - 100 = 900$ 円

答 $2200x + 900y$ (円)

- (2) x , y についての連立方程式

合計の人数から $x + y = 25$

金額から

大人 1人欠席したため、大人的人数は $x - 1$ 人で 1人あたり2500円

小人 y 人で 1人あたり1000円

さらに (1) でもとめた団体割引を使って入場するときより1400円多くかかったことから次式が得られる。

$$2500(x - 1) + 1000y = 2200x + 900y + 1400$$

$$\text{答 } \begin{cases} x + y = 25 \\ 2500(x - 1) + 1000y = 2200x + 900y + 1400 \end{cases}$$

- (3) (2) の連立方程式を解いて、予定していた大人、小人それぞれの人数を求める。

$$x + y = 25 \quad \text{-----} \quad \text{①}$$

$$2500(x - 1) + 1000y = 2200x + 900y + 1400 \quad \text{-----} \quad \text{②}$$

$$\text{②より } 2500x - 2500 + 1000y = 2200x + 900y + 1400$$

$$300x + 100y = 3900$$

$$3x + y = 39 \quad \text{-----} \quad \text{②'}$$

②' - ①より

$$2x = 14 \quad x = 7$$

$$y = 25 - 7 = 18$$

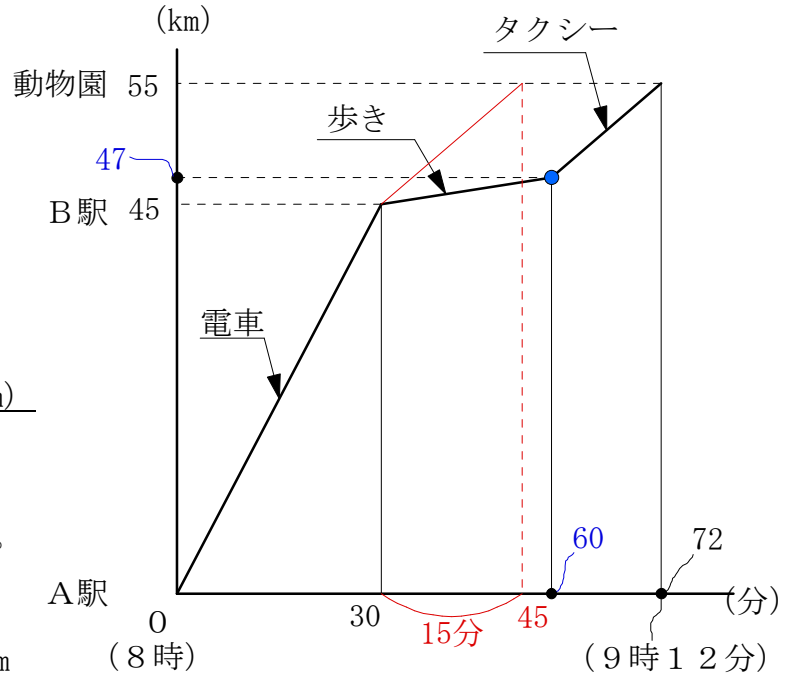
答 大人 7 (人) 、小人 18 (人)

[4]

(1) 電車の速さは毎時何kmか。

グラフより電車は30分で
45 km進んでいる。
したがって1時間(60分)
では90 km進む。

答 (毎時) 90 (km)



(2) 太郎君は、午前何時何分に
動物園に到着する予定だったか。

B 駅から動物園までの距離は
グラフより $55 - 45 = 10$ km
タクシーの速さは毎時 40 km
であるから

B 駅から動物園までタクシーで移動するのに要する時間は

$$\frac{10}{40} = \frac{1}{4} = 0.25 \text{ 時間} \longrightarrow = 0.25 \times 60 = 15 \text{ 分}$$

答 (午前) 8 (時) 45 (分)

(3) 太郎君が A 駅を出発してから x 分後の、太郎君の A 駅からの距離を y km として、歩いているときの x 、 y の関係を式に表わす。ただし、変域は答えなくてよい。

太郎君の歩く速さは毎時 4 km、毎分では $\frac{4}{60} = \frac{1}{15}$ km これが歩いている

ときの直線の傾きである。したがって、求める直線の式を

$$y = \frac{1}{15}x + b \quad \text{とおけば この式は点 (30, 45) を通るから}$$

$$\frac{1}{15} \times 30 + b = 45$$

$$b = 45 - 3 = 42$$

答 $y = \frac{1}{15}x + 42$

(4) 太郎君は、タクシーに何km乗っていたか。

タクシーに乗っていたときの x 、 y の関係式をもとめる。

傾き：毎時 40 km \longrightarrow 毎分 $\frac{40}{60} = \frac{2}{3}$ km これが傾き

求める式を $y = \frac{2}{3}x + b$ とすれば、この式は点 (72, 55) を通るから

$$\frac{2}{3} \times 72 + b = 55 \quad b = 7$$

よって $y = \frac{2}{3}x + 7$ ----- ①

これと (3) で求めた式 $y = \frac{1}{15}x + 43$ ----- ②

①②を解いて $(x, y) = (60, 47)$

タクシーに乗った距離は $55 - 47 = 8$

答 8 (km)

[5]

(1) $\triangle APE \equiv \triangle AQG$ であることを証明する。

$\triangle APE$ と $\triangle AQG$ で

四角形A E F Gと四角形A B C Dは正方形だから

$AE = AG$ ----- ①

$\angle AEO = \angle AGQ (= 90^\circ)$ ----- ②

$\angle QAG + \angle EAQ = 90^\circ$ ----- ③

$\angle PAE + \angle EAQ = 90^\circ$ ----- ④

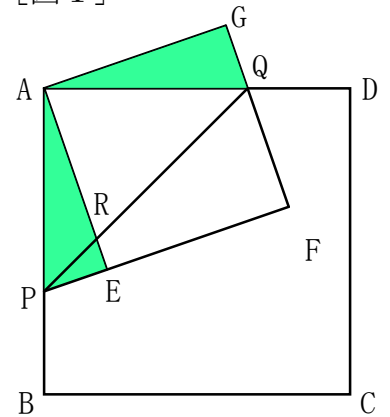
③ ④から

$\angle PAE = \angle QAG$ ----- ⑤

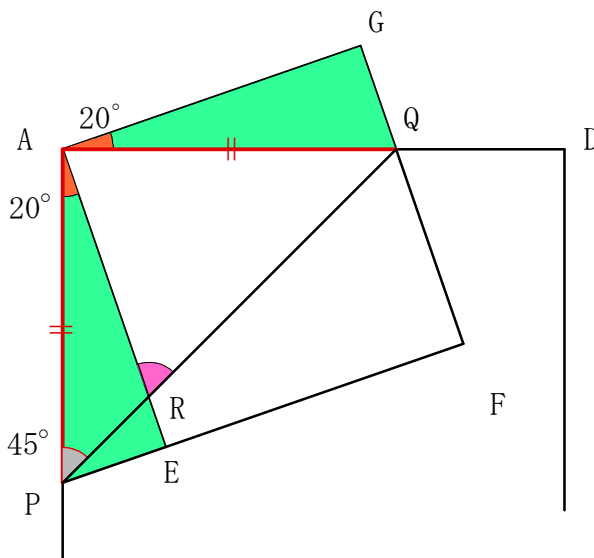
① ② ⑤から、1辺とその両端の角がそれぞれ等しいので

$\triangle APE \equiv \triangle AQG$

[図1]



(2) $\angle QAG = 20^\circ$ のとき、 $\angle QRA$ の大きさを求める。



$\angle QRA$ は $\triangle APR$ の外角であるから

$\angle QRA = \angle PAR + \angle APR$

$\angle PAR = 20^\circ$

$\angle APR = 45^\circ$

($\triangle APQ$ は直角2等辺三角形だから)

$\angle QRA = 20 + 45 = 65^\circ$

答 65 (度)

- (3) [図2] は、直線EFが頂点Dを通ったときの図。AB = 6 cm, AP = 4 cmのとき、 $\triangle FPQ$ の面積を求める。

$$PD = \sqrt{4^2 + 6^2} = \sqrt{16 + 36} = 2\sqrt{13}$$

$\triangle FDQ \sim \triangle APD$ であるから

$$\frac{2}{x} = \frac{2\sqrt{13}}{4} \quad x = \frac{4}{\sqrt{13}} = \frac{4\sqrt{13}}{13}$$

$$\frac{2}{y} = \frac{2\sqrt{13}}{6} \quad y = \frac{6}{\sqrt{13}} = \frac{6\sqrt{13}}{13}$$

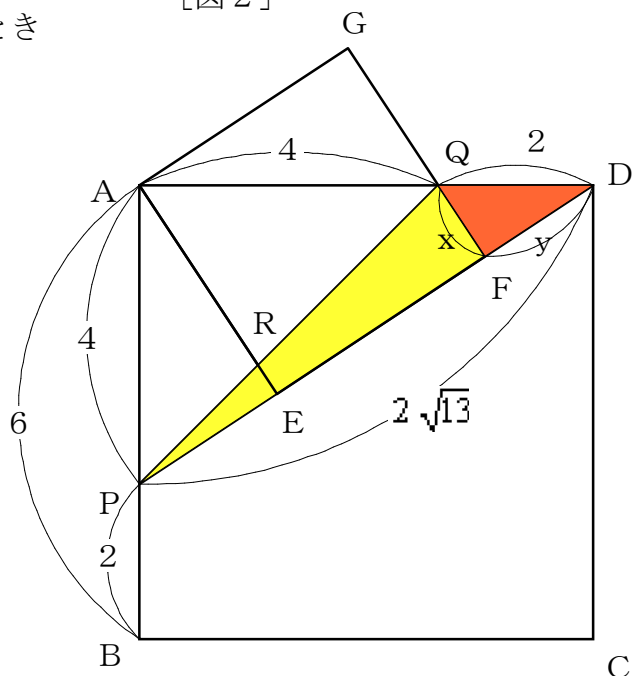
したがって

$$PF = 2\sqrt{13} - y = 2\sqrt{13} - \frac{6\sqrt{13}}{13} = \frac{20\sqrt{13}}{13}$$

よって

$$\triangle FPQ = \frac{1}{2} \times \frac{20\sqrt{13}}{13} \times \frac{4\sqrt{13}}{13} = \frac{40}{13}$$

[図2]



答 $\frac{40}{13}$ (cm²)